

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371000565		
法人名	社会福祉法人 愛敬会		
事業所名	グループホーム 清泉		
所在地	熊本県菊池市七城町亀尾2484番地		
自己評価作成日	平成27年12月7日	評価結果市町村受理日	平成28年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あるなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3-13-12-205
訪問調査日	平成27年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の施設として菊池市の豊かな自然環境を生かし、ホッとできる生活の場の提供。また、グループホームの中に閉じこもることなく、法人内事業所との連携を密にし、リハビリや合同行事参加等で心身の活性化を図るよう努めている。今年度は、法人開設時の目標である「施設からの在宅復帰」を法人内事業所の連携のもと達成することができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者に“ホッ”とできる生活を目指し開設したグループホーム清泉は、この春10年目を迎え、今年度の目標に『お年寄りが笑顔で暮らせるために』を掲げ、管理者や新主任のもと、職員自身が笑顔とチームワークで日々の支援に力を注いでいる。ヤギやウサギをはじめ、メダカやホタルの生物が住む小川など、春夏秋冬を楽しめる敷地の中で、法人内事業所の連携が更にグループホームらしい生活を後押ししている。今年度は特に『在宅復帰の実現』は、本人・家族、そして職員の大きな喜びとなっている。また、退所後も時々ホームを訪れ持参した弁当でお昼を共にされるなど、『ホッ!』とできる馴染みの関係であることが窺える。昼食後のリビングホールでは、ソファに座りテレビ視聴や趣味の折り紙を楽しまれる方、テーブルをきれいにしたり、お盆拭きをされる方などおもしろいおもしろい穏やかな時間が流れていた。今後も、地域に根ざし、入居者・家族から愛される事業所としてこれからの1年1年を重ねていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛・安心・地域と共に」という理念を職員と共に作り、ホームの玄関に掲げ共有している。理念の下、今年の目標を「利用者が笑顔で暮らせるために」とし、職員一人ひとりが利用者の笑顔作りのため意識して取り組んでいる。	10年目を迎え、新たな気持ちで共に笑顔を引き出し為にどうすべきか全職員で検討した部署目標をもとに意識変革を図った1年であり、管理者を中心に職員一人ひとりが理念等を的確に捉えケアに反映させている。“職員の得意分野を発揮しながら楽しいホームを”とする理念は、入居者の日常生活や共有空間の環境等に表れ、車いす利用もない家庭的な明るいホームグループ本来の姿を一層深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスを引き続き利用したり、法人全体でのイベントに参加することで地域の方とのつながりが途切れないよう支援している。	ホーム周辺には民家が少ないという立地的な制約はあるものの、同法人の特別養護老人ホームに隣接という条件を生かしながら、地域とのつながりを絶やさないう支援している。地域に出かけることは課題であると認識しているが、地域のクラブ活動である短歌会に仲間の迎えで参加される方や、入居してもデイサービスに出かけたり、町の文化祭参加は日々の日常に潤いを与え、自信回復や満足感に繋げている。地域住民も環境整備等に協力され、ホームも自主的に周辺掃除を行っている。また、保育園児との運動会や中学生の職場体験の他、多彩な特養の行事参加の他、今年初めての文化祭は多くの住民との交流の機会としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の福祉体験や高校生の実習などを積極的に受け入れている。また、老人会の学習会なども受け入れ、地域の方へ理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の入居状況や活動報告だけでなく、ご家族からの活動の要望や行政からの防災についての助言を受ける等、サービス向上につなげている。アンケート調査の結果報告も行い意見を伺っている。	定例化した運営推進会議は、行政・民生委員・区長や全家族に呼びかけ、入居者の状況や活動・事故等を報告し、質疑応答が行われている。防災についての質問・助言や家族の質問が参加に繋がったケース等や、運営推進会議と文化祭を組み入れる等工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人の行事や運営推進会議にも参加をいただき、グループホームの現状を見ていただいている。また、市の見守りネットワークへの参加等で協力関係を築くようにしている。	運営推進会議の中でホームの現状を積極的に伝えるとともに、集団指導や見守りネットワークの会議に参加等良好な関係が築かれ、行政から法人の行事への参加も得ている。しかし、ホームとしては必要最小限の関りである。	今回の外部評価結果を持ち届け時を、情報交換の機会としていただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で原則身体拘束はしないこととしており、「身体拘束となる具体的な行為」等についての研修を毎年行っている。玄関の鍵も日中は開けており利用者が自由に出入りされている。	法人全体での毎年の研修により再確認しており、身体拘束の弊害は全職員が正しく認識している。入居者個々の外出傾向や帰宅願望を把握し、所在確認を徹底している。入居当初は帰宅願望と一緒に外に出たケースもあるが、現在は玄関先に出られてもホームを家として認識されており、職員はそっと確認する等抑制の無い自由な生活環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年1回、法人内の研修を行い、虐待の防止に努め、どのようなことが虐待にあたるか、利用者にもそのようなことが起こっていないか注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学ぶ機会はあるが、制度の対象となる利用者がなく、今のところ活用するような支援はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にしっかり時間をとり、ご家族に理解していただくよう努めている。特に今年度は利用料金の変更があり、家族会を開き説明し納得していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回独自のアンケートをとることで、普段、面会時に聞けない意見、要望等を知ることができ、サービスの向上につなげている。また、第三者評価時の家族アンケートは特に重視し、運営に反映するよう努めている。	家族の訪問時や行事(クリスマス忘年会等)参加時、及び管理者への直行便としたアンケート(家族の厳しい、温かい目を成長としたいとする意向による)により意見や要望を聞き取りしている。また、外出等呼びかけ、家族同士の交流の機会としている。家族からの苦情の申し出は無いが、相談事は個人記録に残している。入居者にはおやつ時等ゆっくり話をする時間を作り、要望等を収集し、「家に帰りたい」から故郷訪問を支援する等ケアサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度の面談により職員の意見を直接聞く機会を設けている他、人事考課の申告書により意見や提案をいえる機会を設けている。	毎月の会議の中で職員の提案事項や部署目標等を話し合っている。入浴方法・食事・排泄等を検討し、職員の意見にまずはやってみて次月の会議で再度検討し決定している。また、人事考課の個別面談も行う等職員が意見等を出しやすい環境が作られ、職員のやりたいことが入居者の喜びに直結する等提案事項がサービス向上に活かされている。職員同士も意思疎通の良さや良好な職場環境であることが確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書、上司との面談による聞き取りや評価を基に、それぞれの職場環境の整備に努めている。また、法人全体で事例発表の場を設ける等、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会の他、自己申告書による希望を重視しながら、出来るだけ個別の研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他事業所との交流や学習会は常に行っているが、今後は他施設との交流の機会も作っていききたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に待機場所での担当者会議に出席し、本人ご家族の要望等を確認したり、居宅ケアマネージャーから情報収集を行い、スムーズなサービス導入に努めている。不安のある方には入居前に見学、体験を促している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が不安なく入居できるよう必要時は何度もご家族と話し合い、関係を築きながら慎重に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのサービスの利用状況や要望等を知ることで、在宅と同じようなサービスの利用も検討し、必要時はデイサービスの継続利用なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけしていただくことを実践しており、していただいたことに「ありがとう」が言える場面作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には外出外泊の支援をしていただく等、ご家族にしか出来ない役割を果たしていただく事で共に支える関係を築いている。イベントには出来るだけ参加していただけるよう、数ヶ月前からお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたデイサービスの利用を継続したり、長年行きつけの美容室へ行かれたり、地域の短歌会に通われている方もいる。	在宅時の馴染みの関係や培ってきた関係性が途切れないよう、故郷訪問、外食や週末を我が家で過ごす方、盆・正月の帰省や外出、デイサービス利用、地域のクラブ活動である短歌会等家族等の協力を得ながら継続している。編み物や新聞を読みふける方や、自宅で野菜づくりに精を出していたとしてプランターで育てる等継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方との座席配置、活動を支援する一方、仲間に入れない方には職員の声かけで関わりが出来るよう支援している。一緒に家事をされるなど助け合われる場面が日常的に見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居された方が時々遊びに来られるが、その時の様子をご家族に伝えたり、相談事に助言したり、必要に応じて支援に努めている。住み替えをされた方も時々遊びに来られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用い、ご家族より思いや意向の把握を行っている。今年度はおやつ時は職員と共に過ごすなど雑談の中から意向を引き出す機会も設けている。	職員は日々入居者に深くかかわり、寄り添いながら気づきをもってケアに取り組み、おやつ時間や入浴時の1対1の中でゆっくり向き合い、思いなどを引き出している。「家に帰りたい」には故郷訪問、「食べたい」には外食支援等希望を支援している。また、意思疎通困難には家族に聞き取りし、担当職員と話しあいケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用い、長年馴染んだ習慣や好み、これまでの状態や状況をご家族より情報を得ることで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的または状態変化時にアセスメントをとり直し、一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたってはご家族、担当職員、医師、看護師など多くの意見を反映し、変化や課題があるときはグループホーム会議で話し合っている。必要時にはご家族面会時にケアカンファレンスを行っている。	今年度は担当職員がアセスメント及びフェースシート取り直し、ケアマネジャーとして追記する等その人を知ることに重点を置いている。毎月のケアカンファレンスや半年毎に見直したプランは、在宅時の生活継続をプラン化する等具体的・個別性のあるプランである。在宅復帰を可能としたこともプランニングの成功例と言える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事、排泄、身体状況及び日々の暮らしの様子を記録し、その方の発した言葉も記録することで、思いを知るように努めている。また、大事なことは申し送りノートを用いて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況変化により生まれるニーズには、前向きに対応している。今年度は、本人や家族の状況をふまえて、リハビリやデイ利用を行い、在宅復帰を果たした事例もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所後も通い慣れたデイサービスの利用を継続したり、地域の短歌会への参加などの支援をしている。また、地元の温泉に行ったり、永年行きつけの美容院利用は家族の支援で継続されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望によるかかりつけ医によって診療所受診または訪問診療等で適切な医療をうけられるよう支援している。	協力医療機関での受診や往診、もともとのかかりつけ医へ家族による受診など希望に沿って支援されている。往診は居室でゆっくり行われており、診察結果や日頃の健康状態について面会時や電話で家族へ報告している。また、家族が受診に同行する場合は、前もって情報を伝えスムーズな診療に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の健康管理や観察によって早期に異常に気づき看護師に報告。必要時は協力医の指示を受け受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は随時訪問し、利用者を励ますと共に、経過について情報収集し施設協力医に情報を提供している。それを基に、主治医と協力医との連携を密にし、早めの退院が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りについては、指針と同意書を作成し、ご家族への説明とアンケートをとり入居時に今後の方針を確認している。ターミナルケアを行う場合もあるが、グループホームでの対応が困難になった場合、併設の特別養護老人ホームへの住み替えも視野に入れ支援している。	終末期支援に関する指針と同意書を作成しており、入居の段階での本人・家族の思いや意向を文面で確認している。継続した医療対応が必要であればホームでの終末期支援も可能であり、出来る最良の支援に努めている。ホームでの生活が困難になった場合は、同敷地内の特養への住み替えも視野に入れている。	今後ともご縁のあった入居者・家族にホームに出来る支援を継続していただきたい。また、急変や突発的な事故などもありうることから、入居時にリスクについて文面で説明を行うことも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の全体研修やグループホーム会議でも急変時や事故発生時に対応できるように勉強会を行い、それに添った対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルに沿って、定期的に他事業所の協力体制のもと、避難訓練を実施している。実施後の問題点や反省点を話し合い、運営推進会議の中でも紹介している。また法人全体では、消防署立会いのもと総合訓練を行っている。	今年度は8月に夜間想定避難訓練、11月に総合消防訓練を実施し、この訓練後は消防署より総評(消火・誘導班、通報係)を受け、避難誘導のためソファの位置の変更など改善している。また、毎月、防災自主点検表(建物・消火設備・誘導灯など7項目)により安全確認を行い、備蓄は、法人全体で管理されている。	年明けには昼想定避難訓練が予定されており、法人の協力体制のもと定期的な訓練が行われている。今後も自然災害を含め入居者の安全管理に取り組んでいただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と呼ぶときは苗字で呼び、トイレや居室に入る時はノックし許可を得て入室する等、基本的なことを大切にしている。	呼称は苗字にさん付けで対応し、排泄時の声かけや排泄用品の汚染の確認等は特に本人の尊厳やプライバシーに配慮し、ホッとできる言葉かけや対応に努めている。個人情報については同意を得、面会時の記録も個別記入としている。また、職員の守秘義務についても入・退職時に指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内外の行事や活動の参加は自ら選択していただくよう支援している。利用者の希望も尋ねながら、その思いに添えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて過ごしていただいている。「きつい」と訴えがある方には居室で休んでいただいたり、一日に何回もホームを出入りされる方に対しても所在確認の上、自由に行き来していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張の有料カットや行きつけの美容院での定期的な整髪を支援している。イベントの時には職員の見立てと一緒に服選びをしたり、化粧をして参加される利用者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食作りの野菜の切り刻みや食器洗い、お盆拭きなど日々の暮らしの中で定着しており、おやつも季節に合わせた団子やおはぎ作り等、利用者と一緒に作る楽しみの機会を設けている。	昼食は法人厨房で、朝食・夕食はホームで料理している。職員の特技を生かし、入居者と一緒に様々なおやつ(草餅・団子・おはぎなど)作りを楽しむ他、下ごしらえ(とうもろこしの皮むきやニラの根揃えなど)、食器洗いなど入居者の出番は多く、手際良さと丁寧な取り組みで徐々に作業が進んでいた。食事は職員も同じものを摂っており、「これが美味しかよ、食べてみらんね!」「まだ残っとるよ!」など、入居者同士の思いやりのやりとりが印象的であった。	焼きたてパンや厨房と連携しながら行事食の提供にも取り組んでい。今後も入居者の出番を活かしながら楽しい食事支援を継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスについては定期的に管理栄養士にアドバイスを受けている。嚥下に問題のある利用者には、食べやすい大きさにカットして提供したり、水分にトロミをつける等、むせなく摂取できるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い実施し、磨きなおし等の支援を行っているが、声かけに対して応じられない時は時間をおいて再度促すも強制しないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により一人ひとりの排泄の間隔を掴み、声かけなどにより失敗なくトイレで排泄できるよう支援している。紙パンツ使用の方は布パンツ使用へ変更する等、自立へ向けて支援している。	一人ひとりの排泄の間隔や誘導法を職員間で共有し、排泄の失敗がないように努めている。職員のチームワークで紙パンツを使い分け、布下着に変更となった3人の事例等自立に向け取り組んでいる。夜間もトイレやポータブルトイレの使用など状況に応じ準備しており、使用後は日光干しなど清潔に管理している。	トイレ内に置かれた消臭剤のにおいが強すぎるようであった。掃除も行き届いており、無臭のものへの変更や使用についても検討いただきたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分補給に努め、特に夏期は起床後白湯を提供し便秘予防に取り組んでいる。また、排便状態を観察し下剤を調整する等、負担をかけない支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて入浴していただき、時には清潔を保つため、毎日や1日おきに入浴の支援を行っている。また、楽しみのために地域の温泉に出かけることもある。	毎日入浴の準備を行い、基本的に午後2時からの入浴を希望や体調にも配慮しながら取り組んでいる。入浴の目的や手順、入浴後の保湿や水分補給などを職員間で共有し、脱衣所を含め清潔な環境を整えている。また、これまで利用していた併設のデイサービスで、顔なじみの利用者が入浴を楽しまれる方もおられる。地域の温泉施設(身障者用を利用)に2回に分けて出かけ、入浴後にアイスを食べなど湯処ならではの楽しみも支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースでの起床・就寝を支援し日中の活動を充実されることで、よく眠れるように気を配っている。また寝具類は天気が良い日は毎日交替で天日干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をいつでも確認できるようにファイルに綴じて理解に努めている。服薬時は手の平に乗せ、飲み込まれるのを確認。薬の変更や新たに処方された時は、個人の健康チェック表に記入し、誰が見ても分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業をされていた利用者へは一緒に野菜を植える等の支援をしている。また、簡単な家事は自らされている。その事に対し職員も感謝を表すことで役割を果たせた実感を持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの中に閉じこもらない様に天気の良い日は気分転換も兼ね、敷地内の散歩に誘ったり、季節ごとにドライブに出かけたり、時には家族にも声をかけて出掛けている。自宅がお店をされている方には、月に1回職員と買い物に出かける等の支援も行っている。	ドライブや買い物などの入居者の希望による個別外出や、地域の文化祭への出品は外出の機会や制作活動の自信に繋がっている。桜の花見や物産館の食事処などへの企画した外出は、家族へも参加を呼びかけている。何よりも法人が一体となって入居者の支援にあたっており、母体施設でのイベントに限らず生花教室やデイサービスへの参加、生物(うさぎ・ヤギなど)との触れ合いなどの機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心するようにと小額ご自分管理で所持している利用者もおられる。お金を使う機会が少ないが、パンの出張販売等で買い物をしていただく機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住むご家族からの電話を待っている利用者に対して、月に1回電話を下さるよう家族にお願いしている。また、写真つきの葉書を出したり、イベントの後のお礼状には利用者一言に書いていただく等、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作った季節ごとの貼り絵を飾り、ホームを明るい空間にしている。カーテンやシャッターで光の調整を行い、ゲームや食事時は音楽を流し雰囲気作りをしている。	ホーム内は季節の壁面や飾り物が入居者や来訪者の目を楽しませている。段上がりの畳の間も設けられたリビングホールは、入居者の状態に応じてソファが設置され、食後はテレビを見たり趣味の折り紙を楽しめる方など、職員は見守りに徹しており思い思いの時間を過ごせる雰囲気である。帰宅願望から落ち着きがなくなられた方にも、入居者の一人が声をかけおやつを勧める光景に、ハード面に加え、ホーム内の一人ひとりが居心地のよい空間となっていると思われた。	ホーム内は入居者の生花を飾ったり、掃除も徹底されており、心和む空間である。定期的に飾り物など傷みや変色などが無いのか、見直しを行う機会を検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置により皆が集まる場所の他、ちょっと離れて過ごせる場所を設けている。同じソファでも思い思いに居心地の良い場所があり、好きな場所で過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ馴染みのものを持ってきていただくようお願いしている。又、年に2回ほど利用者の希望も尋ねながら、担当職員と一緒にしつらえを考えている。	入居時持ち込みについてキーパーソン以外の方にも話をし、馴染みや必要な品等を持ち込んでもらうようにしている。また、年2回本人の希望や身体面なども考慮しながら、家具の配置や新たに必要な物品などを検討し、毎週自宅に帰られる方は、その都度衣替えなども行われている。採光や窓からの眺めはそれぞれ異なるものの、家族の写真や手紙・手芸品・入口の飾りつけなど、家族の思い、職員の工夫が落ち着いて過ごせる居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー使用の利用者も多く、移動時安全に動けるようにソファやテーブルの配置を考えている。廊下やトイレの手すり等の他、脱衣所にも立ち上がりや立位が出来るよう工夫している。		